

よくわかる SDGs & DX



//////////////////// はじめに //////////////////////

企業を取り巻く環境は常に変化しつづけており、しかもますます加速しているといわれています。新たな価値観の台頭、各国の政治の動向、技術の革新などの影響を、日々の業務のなかで感じておられる方も多くいらっしゃるでしょう。

本書では、そのようなさまざまな変化のなかでも、特に代表的であり、多くの企業に関連する2つのテーマを取り上げます。1つめのテーマは、いまやすっかりお馴染みとなった「SDGs」です。SDGsとは何か、企業はSDGsを自社のビジネスにどのように取り入れていくかを、注目度の高い論点とともにみていきます。

そして2つめのテーマとして、DX（デジタル・トランスフォーメーション）を用意しています。DXが意味するものを明確にしたうえで、企業が自社の経営にDXを導入するメリットやステップについて、職種ごとの導入例を交えて解説していきます。

両テーマに共通するのは、企業には、自らの存在意義や創造価値を今一度問い直し、自社のビジネスの仕組みを進化させていくことが強く求められている、ということです。これを実践するには、経営者がみずからビジョンを掲げ、自分事として取り組むことはもちろん、従業員もその意志を理解し、少しずつでも実際の行動に移していくことが重要です。

本テキストが、読者の皆様にこの革新的かつ興味深い2つのテーマに関心を寄せていただくきっかけとなり、次の時代に向けた第一歩を踏み出すための一助となれば幸いです。

よくわかるSDGs & DX

はじめに	3
------------	---

第Ⅰ部 SDGsを活用したビジネス創出と持続可能な経営

SDGs（持続可能な開発目標）17の目標と169のターゲット	6
1. サステナビリティと企業への期待	14
2. SDGsとビジネス	16
3. 気候変動とカーボンニュートラル	18
4. 水資源の保護と持続的管理	20
5. 森林における環境・社会問題	22
6. 人権問題とサプライチェーン管理	24
7. ダイバーシティ&インクルージョン	26
8. サーキュラー・エコノミー	28
9. デジタル技術がもたらすサステナビリティ	30
Column	32
10. 【演習問題】SDGsと企業活動の関係を理解する	33
11. 【演習問題】SDGsを通じて「社会のニーズ」を知る	35
12. 【演習問題】SDGsと自社とのつながりを考える	37
13. 【演習問題】SDGsを社内に広めて実行に移す	39
14. 【演習問題】自社の取り組みを外部にアピールする	41
15. 【演習問題】SDGs起点の市場開拓	43
16. 【演習問題】社会貢献・事業貢献の両立	45
17. 【演習問題】気候変動対策を価値に	47
18. 【演習問題】社員に選ばれる会社へ	49

第Ⅱ部 DXの基本とシステム導入のポイント

1. DXとは何か	52
2. 遅れている日本のデジタル化	54
3. 消費スタイルの変化がDXを促す	56
4. DX推進のメリットとは	58
5. DXの成功例	60
6. DX推進のステップ	62
7. 攻めと守りのDX	64
8. スモールスタートのすすめ	66
9. 【導入例】マーケティングのDX	68
10. 【導入例】営業のDX	70
11. 【導入例】製造のDX	72
12. 【導入例】物流のDX	74
13. 【導入例】経営企画のDX	76
14. 【導入例】総務のDX	78
15. 【導入例】人事・労務のDX	80
16. 【導入例】法務のDX	82
17. 【導入例】経理のDX	84
18. 【導入例】業務プロセスを全体最適化するDX	86

I 部

SDGsを活用した ビジネス創出と 持続可能な経営



SDGs 17の目標と169のターゲット

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

※下記の「SDGs（持続可能な開発目標）17の目標と169のターゲット」は、農林水産省のホームページをもとに作成しています。

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/sdgs/sdgs_target.html

1 貧困をなくそう



貧困をなくそう

あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる

ターゲット

- 1.1 2030年までに、現在1日1.25ドル未満で生活する人々と定義されている極度の貧困をあらゆる場所で終わらせる。
- 1.2 2030年までに、各国定義によるあらゆる次元の貧困状態にある、すべての年齢の男性、女性、子どもの割合を半減させる。
- 1.3 各国において最低限の基準を含む適切な社会保護制度及び対策を実施し、2030年までに貧困層及び脆弱層に対し十分な保護を達成する。
- 1.4 2030年までに、貧困層及び脆弱層をはじめ、すべての男性及び女性が、基礎的サービスへのアクセス、土地及びその他の形態の財産に対する所有権と管理権限、相続財産、天然資源、適切な新技術、マイクロファイナンスを含む金融サービスに加え、経済的資源についても平等な権利を持つことができるように確保する。
- 1.5 2030年までに、貧困層や脆弱な状況にある人々の強靱性（レジリエンス）を構築し、気候変動に関連する極端な気象現象やその他の経済、社会、環境的ショックや災害に暴露や脆弱性を軽減する。
- 1.a あらゆる次元での貧困を終わらせるための計画や政策を実施するべく、後発開発途上国をはじめとする開発途上国に対して適切かつ予測可能な手段を講じるため、開発協力の強化などを通じて、さまざまな供給源からの相当量の資源の動員を確保する。
- 1.b 貧困撲滅のための行動への投資拡大を支援するため、国、地域及び国際レベルで、貧困層やジェンダーに配慮した開発戦略に基づいた適正な政策的枠組みを構築する。

2 飢餓をゼロに



飢餓をゼロに

飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する

ターゲット

- 2.1 2030年までに、飢餓を撲滅し、すべての人々、特に貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。
- 2.2 5歳未満の子どもの発育阻害や消耗性疾患について国際的に合意されたターゲットを2025年までに達成するなど、2030年までにあらゆる形態の栄養不良を解消し、若年女子、妊婦・授乳婦及び高齢者の栄養ニーズへの対処を行う。
- 2.3 2030年までに、土地、その他の生産資源や、投入財、知識、金融サービス、市場及び高付加価値化や非農業雇用の機会への確実かつ平等なアクセスの確保などを通じて、女性、先住民、家族農家、牧畜民及び漁業者をはじめとする小規模食料生産者の農業生産性及び所得を倍増させる。
- 2.4 2030年までに、生産性を向上させ、生産量を増やし、生態系を維持し、気候変動や極端な気象現象、干ばつ、洪水及びその他の災害に対する適応能力を向上させ、漸進的に土地と土壌の質を改善させるような、持続可能な食料生産システムを確保し、強靱（レジリエント）な農業を実践する。
- 2.5 2020年までに、国、地域及び国際レベルで適正に管理及び多様化された種子・植物バンクなども通じて、種子、栽培植物、飼育・家畜化された動物及びこれらの近縁野生種の遺伝的多様性を維持し、国際的合意に基づき、遺伝資源及びこれに関連する伝統的な知識へのアクセス及びその利用から生じる利益の公正かつ衡平な配分を促進する。
- 2.a 開発途上国、特に後発開発途上国における農業生産能力向上のために、国際協力の強化などを通じて、農村インフラ、農業研究・普及サービス、技術開発及び植物・家畜の遺伝・バンクへの投資の拡大を図る。
- 2.b ドーハ開発ラウンドの決議に従い、すべての形態の農産物輸出補助金及び同等の効果を有するすべての輸出措置の並行的撤廃などを通じて、世界の農産物市場における貿易制限や歪みを是正及び防止する。
- 2.c 食料価格の極端な変動に歯止めをかけるため、食料市場及びデリバティブ市場の適正な機能を確保するための措置を講じ、食料備蓄などの市場情報への適時のアクセスを容易にする。



すべての人に健康と福祉を

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

ターゲット

- 3.1 2030年までに、世界の妊産婦の死亡率を出生10万人当たり70人未満に削減する。
- 3.2 すべての国が新生児死亡率を少なくとも出生1,000件中12件以下まで減らし、5歳以下死亡率を少なくとも出生1,000件中25件以下まで減らすことを目指し、2030年までに、新生児及び5歳未満児の予防可能な死亡を根絶する。
- 3.3 2030年までに、エイズ、結核、マラリア及び顧みられない熱帯病といった伝染病を根絶するとともに肝炎、水系感染症及びその他の感染症に対処する。
- 3.4 2030年までに、非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて3分の1減少させ、精神保健及び福祉を促進する。
- 3.5 薬物乱用やアルコールの有害な摂取を含む、物質乱用の防止・治療を強化する。
- 3.6 2020年までに、世界の道路交通事故による死傷者を半減させる。
- 3.7 2030年までに、家族計画、情報・教育及び性と生殖に関する健康の国家戦略・計画への組み入れを含む、性と生殖に関する保健サービスをすべての人々が利用できるようにする。
- 3.8 すべての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を達成する。
- 3.9 2030年までに、有害化学物質、ならびに大気、水質及び土壌の汚染による死亡及び疾病の件数を大幅に減少させる。
- 3.a すべての国々において、たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約の実施を適宜強化する。
- 3.b 主に開発途上国に影響を及ぼす感染性及び非感染性疾患のワクチン及び医薬品の研究開発を支援する。また、知的所有権の貿易関連の側面に関する協定（TRIPS協定）及び公衆の健康に関するドーハ宣言に従い、安価な必須医薬品及びワクチンへのアクセスを提供する。同宣言は公衆衛生保護及び、特にすべての人々への医薬品のアクセス提供にかかわる「知的所有権の貿易関連の側面に関する協定（TRIPS協定）」の柔軟性に関する規定を最大限に行使する開発途上国の権利を確約したものである。
- 3.c 開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国において保健財政及び保健人材の採用、能力開発・訓練及び定着を大幅に拡大させる。
- 3.d すべての国々、特に開発途上国の国家・世界規模な健康危険因子の早期警告、危険因子緩和及び危険因子管理のための能力を強化する。



質の高い教育をみんなに

すべての人々への、包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

ターゲット

- 4.1 2030年までに、すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。
- 4.2 2030年までに、すべての子どもが男女の区別なく、質の高い乳幼児の発達支援、ケア及び就学前教育にアクセスすることにより、初等教育を受ける準備が整うようにする。
- 4.3 2030年までに、すべての人々が男女の区別なく、手頃な価格で質の高い技術教育、職業教育及び大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする。
- 4.4 2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。
- 4.5 2030年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にある子どもなど、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。
- 4.6 2030年までに、すべての若者及び大多数（男女ともに）の成人が、読み書き能力及び基本的計算能力を身に付けられるようにする。
- 4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。
- 4.a 子ども、障害及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、すべての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする。
- 4.b 2020年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国、ならびにアフリカ諸国を対象とした、職業訓練、情報通信技術（ICT）、技術・工学・科学プログラムなど、先進国及びその他の開発途上国における高等教育の奨学金の件数を全世界で大幅に増加させる。
- 4.c 2030年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国における教員養成のための国際協力などを通じて、質の高い教員の数を大幅に増加させる。